

# 優勝2選手を輩出

## ドラコン 安全意識底上げ

宮本運輸

【栃木】5月に開かれたトラックドライバー・コン

テストの栃木県大会で、宮本運輸（宮本一成社長、栃木県那須塩原市）の従業員2人が2部門で優勝を果たした。従業員数25人と決して多くはないが、宮本社長は「小さい会社でも2人も優勝できる。安全運転意識を高め、大手に負けない選手を輩出したい」と意気込んでいる。

栃木県大会で優勝したのは、11トン部門に出場した渡辺邦和選手（46）と、4トン部門の和気隆浩選手（40）。

渡辺選手は、2017年から毎年出場し何度も入賞する実力者だが、優勝は今回が初めて。更には普段の業務で4トン車を運転しているものの、今大会は11トン部門へ転向。慣れない中でも、バック走行で指定された位置に駐車する種目では誤差0センチに収めるなど、確

実な技術で勝利をつかんだ。

そんな渡辺氏を「師匠」と慕う和気選手は、昨年の初出場で2位入賞。普段はプロパンガスのルート配送を担当しており、大会出場は社長の勧めだったという。

二人の特訓は大会1カ月前から始まった。駐車場に特設のコースを作り、終業後の1、2時間を技術練習

に充てた。また、学科試験対策は管理部の木野一弘氏が担当。試験の傾向を分析した問題集を作り、選手に取り組んでもらった。

大会の審査は、学科、日常点検、運転競技の3項目で行う。両選手はいずれの項目も1位で、総合成績も優勝と同社が始まって以来の最高成績だった。

「2人の頑張りが他のドライバーの士気を高めてくれている」と宮本聡専務は語る。また、コンテスト出場は過去5年間の無事故・無違反が条件となるため、「より多くのドライバーがコンテストを目指すことで、安全運転意識の底上げにつながるはずだ」と強調する。

10月に茨城県で開催予定の全国大会へは1社から1人の出場とな

優勝トロフィーを手にする渡辺選手（左）と和気選手



優勝トロフィーを手にする渡辺選手（左）と和気選手